

留 学 報 告 書

令和 8 年 5 月 25 日

研究科 法文学部言語文化学科

氏 名 中田 栞

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 アメリカ合衆国

大学名 ケント州立大学

現地到着日（ 2025 年 10 月 7 日）

授業開始日（ 2025 年 10 月 13 日）

現地出発日（ 2026 年 5 月 12 日）

授業終了日（ 2026 年 5 月 1 日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

ビザ取得、寮申請、ミールプランの手続き、ワクチン接種、飛行機などの交通手段の手配、両替、持ち物の調達や準備など

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

飛行機で広島から羽田、羽田からサンフランシスコ、サンフランシスコからクリーブランドへ行った。クリーブランド空港からは、大学を通して予約した送迎を利用しました。すべて含めて約24時間かかった。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

寮の入り口で仮カードをもらって、部屋に行き、荷物などを置く。寮の建物や自分の部屋、バスルームに入るために大学の学生証が必要なため、荷物を置いたらすぐにstudent centerに手続きに行く。学生証にはミールも紐づけられているので、早めに受け取りに行く。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

10月に渡米したため、オリエンテーションには参加していない。ESLのプレースメントテストはテストとES

Lの説明で3～4時間ほどだった。

6. 授業の受け方, ペーパー及び試験の傾向等について

ESLは教材もテストも学部の授業に比べ、紙媒体のものが多かったように感じる。授業のスタイルは日本と同じで、先生が前でパワーポイントなどを利用しながら授業を進める。ESLは季節によって様々なイベントがあり、アメリカの文化を深く知る機会も多かった。ESLは授業、テスト共にすべて対面で行われた。学部の授業は授業によって異なる。ESLに比べて、特に生徒が多い授業では紙媒体は少なく、オンライン上で資料が配られた。テストも授業によって異なり、対面で紙媒体で受ける授業もあれば、家に帰ってオンラインで受けるものもあった。一般教養の授業は筆記よりも選択問題が多かった。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの, 後輩に勧めたいもの

ズンバの授業が特によかった。ズンバという運動の授業で、日本では履修することができないので、面白い体験だった。また、身体を動かすことで気分転換にもなった。他にも、ヨガやピラティス、ダンスなど様々な授業があるようなので、ぜひ調べてみてほしい。

8. 留学先大学の住居の種類等について, 後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

私は、tri-towerのwright hallに住んでいたが、満足している。特に、洗濯をするときは、tri-towerの別の棟に行かなければいけないが、洗濯機も乾燥機もたくさんあるため、待たないといけないことはほとんどなく、快適だった。寮によっては1フロアに洗濯機と乾燥機が1つずつしかなく、利用したいときに利用できないということもあるみたいだった。また、tri-towerは建物内にコンビニや軽食が提供される店、ジムもあった。他の寮を選ぶ場合はeastwayに近い建物だと大きい食堂や図書館に近く、値段が高くなっても大丈夫であればcentral courtを選ぶと、それぞれの部屋にバスルームが付いているため快適だと思う。

9. 寮・アパート生活での注意, 生活の様子(行事など), 困ったこと, ルームメイトとの付き合い方, (いつから入れるのか, 寮の開閉, 寮が閉鎖中の滞在場所等)

寮に入る時、エレベーターに乗ったとき、自分の部屋に入る時、バスルームに入るときなどすべてにおいて

自分の学生証が必要なため、常に学生証を携帯しなければならない。トイレに行くだけでも学生証が必要で、部屋に忘れてしまうと部屋にも入れなくなるので、特に夜中などは注意が必要。行事は定期的に寮ごとやフロアごとのイベントがあった。困ったことは、一度だけ突然半日ほど断水したこと。ルームメイトとの付き合い方については、ルームメイトが韓国人で同じアジア人だったこともあり、特に問題はなかった。他の友達は、ルームメイトとの付き合い方に苦労していた人も多かったが、入寮後でも部屋を変えることができ、その制度を使っている人も多くいた。Fall semesterは途中から渡米したので、学期開始前いつから入寮できるのか分からないが、冬休み期間中は基本的に寮に滞在できず、spring semester開始前日から寮が再び開いた。私は、冬休み期間中、友達の家滞らせてもらったが、ずっと旅行している友達や、追加で費用を払えば冬休みの間も寮に滞在できるので、そのまま寮に残っている人もいた。ただ、食堂などは開いていないので、自分でご飯を用意しなければならない。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)

渡米時は、クレジットカード2枚とプリペイド式のカード1枚と現金を200ドル程度持って行った。プリペイド式のカードは日本から親にお金を入れてもらって使っていた。また、アメリカでPNCバンクの口座も作った。こちらにも、日本から親に送金してもらった。友達と割り勘することがあるので、現金化口座のどちらかは持っていた方が良いと思う。加えて、アマゾンなどのネットでの買い物やホテルや飛行機をネットで取る時に、カードによっては認証が必要で、私の場合は日本で使っていた電話番号に來たのですが、留学時は日本の電話番号を使えないようにしていて、カードが使えないことが多かったので、留学前にカードの電話番号の変更をおすすめする。

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

学生証で困ったことがあれば、student centerの地下1階に学生証の事務所があるので、そこに行く。留学に関することがあれば、ISSSに連絡するのが、一番良いと思う。ISSSが担当でなくても、どこに連絡すればよいかなどを教えてくれる。ESLに所属していた時は留学生担当の先生がESLにいたため、困ったことがあれば一番にその先生や授業の先生に聞いていたが、学部の授業を取っていた時は特に担当の先生などはいなかったもので、分からないことなどは友達に聞くことが多かった。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

冬休み中、spring semesterの支払いをしなければならなかったが、その金額が交換留学生は払わなくても良い授業料なども含まれていて、頑張って財務担当に電話したが対応してもらえず、ISSSに連絡してみたらすぐに対応してもらえた。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

私は利用しなかったが、大学内にあるmedical centerは基本的には無料で利用でき、薬などにのみお金がかると友達から聞いた。ただ、サイトから予約が必要。

15. お世話になった方々

友達、先生、ISSSの方々。

16. 留学先国内旅行について（場所、手段、費用、旅行社等）

クリーブランド：バスで片道5ドル（現金でちょうど用意する）

ロサンゼルス：飛行機（アメリカン航空）で往復534ドル

ニューヨーク：飛行機（デルタ航空）で往復357ドル

シカゴ：飛行機（ユナイテッド航空）で往復197ドル

バッファロー：飛行機（行き：デルタ航空、帰りサウスウエスト航空）で往復約400ドル

17. 気候と服装について

10月に渡米したため、8月などの夏はどれくらいの気候か分からないが、冬は最低マイナス20度になるくらい寒い。建物の中は空調が効いていて問題ないが、授業に行くために外に出なければならないため、ヒートテックは持って行ったほうが良い。私はダウンも持って行ったが、ダウンや手袋などはアメリカでも買うことができる。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書、旅行案内書を含めて）

本は特にない。私は電子辞書を持って行ったが、持ってきていない留学生も多く、先生に事情を話しておけば授業中でもスマホで分からない単語の意味を調べられるので、なくても良いと思う。

20. ホームステイの依頼方法

ホームステイは利用していない。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往復)	<u>456,820</u> 円
2) 準備費用		<u>100,000</u> 円
3) 大学へ納入する費用		<u>1,000,000</u> 円
授業料 (年間合計)		<u>0</u> 円
保険等その他の費用		<u>1,000,000</u> 円
4) 住居費 (光熱費等含む)		<u>1,240,000</u> 円
5) 衣服代, その他雑費		<u>150,000</u> 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等		<u>80,000</u> 円
7) 留学先国内旅行費用		<u>600,000</u> 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額		<u>3,700,000</u> 円
現地通貨 <u>ドル</u> 日本円換算 (レート) <u>150~160</u>		<u>円</u>

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

スーツケースに入らないものはすべて捨てたため、送らず自分で持って帰ってきた。スーツケースに入っても重量オーバーになることが多いので、注意する。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

私はこの留学を通して、たくさんのことを学んだ。英語面では、リスニング力とスピーキング力の向上を感じている。英語を話すことへの抵抗感や完璧な英語を話さなければいけないと思うことはなくなり、完璧じゃなくてもとりあえず話してみる、伝えてみるができるようになった。特に、冬休みが終わった後、友達に話すのが早くなったと言われた時は、本当にうれしかった。学部の授業では、私のつたない英語をクラスメイトのみんながしっかり聞いて、理解してくれた。また、何事にも挑戦してみることもたくさんできた。友達を作るために、様々なイベントや集まりに行き、人に話しかけたり、日本でもしたことがなかった一人旅をしたりと本当に様々なことに挑戦した。友達や先生にも恵まれ、寂しい思いをすることなく、留学期

間を過ごすことができた。加えて、アメリカの文化を生で体験することができた。ハロウィンやThanksgiving、クリスマスなどはもちろん、日常の小さな知らない人とも挨拶や会話をする文化や前の人が次の人のためにドアを開けてあげる文化なども体験できた。特に、私は他人の服や見た目をほめる文化が新鮮で、自分からはできなかったが、何度が褒められたことがありとても嬉しかった。8か月という長いようで、あっという間の留学だったと感じている。授業などやはり大変な部分もあったが、それ以上に成長でき、新しい価値観に出会えた留学だったし、これ以上に大きな挑戦は無いのではないかと思う。自分の行動次第なところもあるが、行って後悔することは無いと思うので、留学を考えている人はぜひ挑戦してみてほしい。